PCT

特許性に関する国際予備報告(特許協力条約第二章)

(法第12条、法施行規則第56条) [PCT36条及びPCT規則70]

REC'D	23	CEC	2004
WIPO			PCT

出願人又は代理人 の審類記号 B020603QH16	今後の手続きについては、様式PCT/IPEA/416を参照すること。				
国際出願番号 PCT/JP2004/000366	国際出願日 (日.月.年) 19.01.2004 優先日 (日.月.年) 31.01.2003				
国際特許分類 (IPC) Int. C17 A61K31/09, 31/122, 45/00, 9/06, 9/10, 9/12, 9/70, A61P3/02, 21/00, 43/00					
出願人(氏名又は名称)					
	鐘淵化学工業株式会社				
1. この報告費は、PCT35条に基づきこの国際予備審査機関で作成された国際予備審査報告である。 法施行規則第57条(PCT36条)の規定に従い送付する。					
2. この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 5 ページからなる。					
3. この報告には次の附属物件も添付されている。 a					
一 補正されて、この報告の基礎とされた及び/又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範囲及び/又は図面の用紙(PCT規則70.16及び実施細則第607号参照)					
第 I 欄 4. 及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとこの 国際予備審査機関が認定した差替之用紙					
b 電子媒体は全部で 配列表に関する補充欄に示すように、コンピュータ読み取り可能な形式による配列表又は配列表に関連するテーブルを含む。(実施細則第802号参照)					
4. この国際予備審査報告は、次の内容を	· 含む。				
・					
図 第Ⅲ欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成 第Ⅳ欄 発明の単一性の欠如 ※ 第Ⅴ欄 RCT35条 (ハ) オオロカス オロボーン ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※					
・ 区 第V欄 PCT35条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明					
第四個国際出願の不備					
□ 第¼欄 国際出願に対する	意見				
国際予備審査の請求書を受理した日 23.04.2004	国際予備審査報告を作成した日 08.12.2004				
名称及びあて先	特許庁審査官(権限のある職員) 4C 9450				
日本国特許庁 (IPEA/JP) 郵便番号100-8915	伊藤 去司				
東京都千代田区霞が関三丁目4番3	3号				
	電話番号 03-3581-1101 内線 3452				

1. この国際予備審査報令	Fは、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎とした。	·
□ この報告は、	\cdot	
それは、次の目的	――――――――――――――――――――――――――――――――――――	
☐ PCT規則12	3及び23.1(b)にいう国際調査	
PCT規則12.	4にいう国際公開	
PCT規則55.	2又は55.3にいう国際予備審査	
2. この報告は下記の出願	建粉之甘味1.1 。 () 如 。 。 ()	
た差替え用紙は、この報告	「書類を基礎とした。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために において「出願時」とし、この報告に添付していない。)	是出され
・X出願時の国際出願	書類	
□ 明細書		
·— 第 <u>·</u>		•
第	ーニー サン・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・	
第		したもの
請求の範囲	,	JIC 80 0.
第		
第		
第 第	項*、 付けで国際予備審査機関が受理し	* * * *
я		たもの
図面		,,,,,
第		. •
第 第	ページ/図*、 付けで国際ス (#オナ) # 1	<u>م</u> د د
弗	ページ/図*、付けで国際予備審査機関が受理し	たもの
配列表又は関連する		,
配列表に関する	5 補充欄を参照すること。	
. □ 補正により 下部の)春類が削除された。	,
	が対象が関係された。	
□ 明細書	・ 第ページ	
間求の範囲	第	
□ 図面 □ 配列表(日本4	第 ページ/図 Dに記載すること)	
一 即列主に即立	では、一般では、こと できない できない できない こうしゅう かんしゅう こく かんしゅう こく かんしゅう こく かんしゅう こく かんしゅう こく かんしゅう こうしゅう こうしゅう こうしゅう しゅうしゅう しゅう	
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□	・・・・、 (
し」 同の政権の		
·	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
この報告は、補充概	に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における関示の節	田を叔
この報告は、補充概	に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範 められるので、その補正がされなかったものとして作成した。 (PCT規則70.2(c))	囲を超
この報告は、補充概	第 第 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	囲を超
□ この報告は、補充概 えてされたものと節□ 明細書□ 請求の範囲	第	囲を超
□ この報告は、補充概 えてされたものと髭 □ 明細魯 □ 請求の範囲 □ 図面	第	囲を超
□ この報告は、補充概 えてされたものと節 □ 明細審 □ 請求の範囲 □ 図面 □ 配列表(具体的	第	囲を超
□ この報告は、補充概 えてされたものと節 □ 明細審 □ 請求の範囲 □ 図面 □ 配列表(具体的	第	囲を超
□ この報告は、補充概 えてされたものと節 □ 明細審 □ 請求の範囲 □ 図面 □ 配列表(具体的	第	囲を超
□ この報告は、補充概 えてされたものと節 □ 明細審 □ 請求の範囲 □ 図面 □ 配列表(具体的	第	囲を超
□ この報告は、補充概 えてされたものと節 □ 明細審 □ 請求の範囲 □ 図面 □ 配列表(具体的	第	囲を超
□ この報告は、補充概 えてされたものと節 □ 明細書 □ 間求の範囲 □ 図面 □ 配列表(具体的 □ 配列表に関連す	第	囲を超

第Ⅲ欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解	の不作成
1. 次に関して、当該請求の範囲に記載されている発明の新規性 審査しない。	
国際出願全体	
※ 請求の範囲 16-27	
理由: I この国際出願又は簡求の範囲 16-27 次の事項を内容としている(具体的に記載すること)。 請求の範囲 16-27は、治療による人体第34条(4)(a)(i)及びPCT規則67.1(iv)の規定予備審査を行うことを要しない対象に係るも	こに トリートの国際子供金大機関ショル
	•
明細書、請求の範囲若しくは図面(次に示す部分)又は請求の 記載が、不明確であるため、見解を示すことができない(具体	D範囲の k的に記載すること)。
,	
	•
	·
全部の間求の範囲又は請求の範囲 裏付けを欠くため、見解を示すことができない。	が、明細書による十分な
※ 請求の範囲 16-27	について、国際調査報告が作成されていない。
□ ヌクレオチド又はアミノ酸の配列表が、実施細則の附属書C (のガイドライン) に定める基準を、次の点で満たしていない。	塩基配列又はアミノ酸配列を含む明細審等の作成のため
書面による配列表が 「」	提出されていない。
コンピュータ読み取り可能な形式による配列表が	所定の基準を満たしていない。 提出されていない。 所定の基準を満たしていない。
コンピュータ読み取り可能な形式によるヌクレオチド又はアミ Cの2に定める技術的な要件を、次の点で満たしていない。	ノ酸の配列表に関連するテーブルが、実施細則の附属書
□ 提出されていない。 □ 所定の技術的な要件を満たしていない。	
詳細については補充欄を参照すること。	
·	

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、 それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)

請求の範囲 請求の範囲 4-10, 14, 151-3, 11-13

有

進歩性 (IS)

請求の範囲 請求の範囲

産業上の利用可能性 (IA)

請求の範囲 請求の範囲

1 - 15

有

有

無

文献及び説明 (PCT規則70.7)

文献 1: WO 98/07417 A1 (鐘淵化学工業株式会社) 1998.02.26 文献 2: JP 10-287560 A (大正製薬株式会社) 1998.10.27

文献 3: JP 10-53520 A (武田薬品工業株式会社) 1998.02.24 文献 4: JP 7-330584 A (大正製薬株式会社) 1995.12.19 文献 5: JP 7-330593 A (大正製薬株式会社) 1995.12.19

文献6: JP 2002-363073 A

(株式会社クレッセンドコーポレーション) 2002.12.18

<請求の範囲1-3、11-13> 請求の範囲1-3及び11-13に係る発明は、国際調査報告で引用された文献 1より新規性及び進歩性を有しない。

文献1には、20重量%を超える還元型補酵素Q10を有効成分とする医薬組成物で あって、補酵素Q10は肉体疲労に要求され得ること、補酵素Q10製剤は、溶解型又 は乳化、分散型の製剤とし得ること、また還元型補酵素Q10は酸化型補酵素Q10に 比べ高いバイオアベイラビリティを発揮することが記載されている。

請求の範囲1-3及び11-13に係る発明は、国際調査報告で引用された文献 2-6より進歩性を有しない。

文献2及び4-6には、酸化型補酵素Q10に相当するユビキノン類を有効成分と する疲労改善剤が記載されている。一方、文献3には、ユビキノン類と類似の化学構造を有する式(I)で表される化合物を有効成分とする抗疲労剤であって、キノン 型(酸化型)のみならずヒドロキノン型(還元型)も同様に抗疲労剤として使用するこ とができることが記載されている。してみれば、文献2及び4-6に記載された発 明において、ユビキノン類のヒドロキノン型、即ち還元型補酵素Q10に抗疲労剤と しての作用を見出してみることは当業者が容易になし得ることである。

<請求の範囲4-10、14、15> 請求の範囲4-10、14及び15に係る発明は、国際調査報告で引用された文 献1-6より進歩性を有しない。

文献1には、還元型補酵素Q10が疲労回復に有用であることが記載されている。 一方、文献2-6には、疲労改善剤において、各種ビタミン、アミノ酸、抗酸化剤等他の疲労回復に有用な成分を併用することが記載されている。してみれば、文献1に記載された発明において、公知の疲労回復に有用な成分を適宜添加してみることは当業者が容易になし得ることである。

特許性に関する国際予備報告

国際出願番号 PCT/JP2004/000366

第VI欄 ある種の引用文献

1. ある種の公表された文書 (PCT規則70.10)

出願番号 特許番号

公知日 (日.月.年) 出願日 (日.月.年) 優先日(有効な優先権の主張) ____(日.月.年)

JP 2003-119127 A 23.04.2003 (鐘淵化学工業株式会社) [E, X]

10. 10. 2001

2. 舂面による開示以外の開示 (PCT規則70.9)

曹面による開示以外の開示の種類

書面による開示以外の開示の日付 ___ (日.月.年)

書面による開示以外の開示に言及している 書面の日付(日.月.年)